

# 防災教育が大きく変遷した

自己肯定感を育む活動ができた

(兵庫地連)

2012年5月26日 19歳で阪神淡路大震災を経験した深山氏が報告と決意を述べました。



連合兵庫主催の「東日本大震災の被災地を忘れず、ともに歩もうーボランティア活動の経験から～人と人とのつながり集会」が5月26日神戸市中央区の神戸市教育会館で開かれ、約170名が集まりました。この集会には講師として被災地・連合福島の今泉裕事務局長が出席し、救援活動への感謝と被災地の現状報告をおこないました。また、昨年4月下旬に、連合ボランティアとして1週間ほど福島県いわき市に派遣された全自交兵庫地連の深山幸夫氏（国際興業神戸労働組合）が、第4陣派遣チーム代表として、当時のボランティアの活動報告と被災地のことを忘れないで今後も被災者とともに復興のためにがんばっていく決意を述べました。

大震災の犠牲者に出席者全員で黙とうを捧げた後、主催者代表として、森本洋平連合兵庫会長が「今回は東日本大震災を通して、私たちは何を学び、何を伝えてゆくのか考えたいと思います。今回の事象を風化させてはならないと言われるが、風化させない努力は並大抵のことではありません。現に、17年前の阪神・淡路大震災の経験者が年々少なくなり、三分の一は震災を経験していない市民となっています。学習会をはじめ地道な努力をつづけていくしかないと思います」と述べました。



講演は、連合福島事務局長今泉裕氏が「絆 人と人とのつながり～今は生きる」と題して行ない、目に見える災害と見えない災害があり、とりわけ、放射能の恐怖、風評被害の拡大、精神疾患の増加、コミュニティーの崩壊など深刻な状況が報告されました。続いて、兵庫県立舞子高校環境防災科長諏訪清二教師が「二つの災害を通して考える～阪神・淡路大震災戸東日本大震災～」と題して行ない、二つの大災害を経て防災教育が大きく変遷したことや高校生が災害ボランティアを通じて自己肯定感を育む活動が出来たことなどが報告されました。

講演は、連合福島事務局長今泉裕氏が「絆 人と人とのつながり～今は生きる」と題して行ない、目に見える災害と見えない災害があり、とりわけ、放射能の恐怖、風評被害の拡大、精神疾患の増加、コミュニティーの崩壊など深刻な状況が報告されました。続いて、兵庫県立舞子高校環境防災科長諏訪清二教師が「二つの災害を通して考える～阪神・淡路大震災戸東日本大震災～」と題して行ない、二つの大災害を経て防災教育が大きく変遷したことや高校生が災害ボランティアを通じて自己肯定感を育む活動が出来たことなどが報告されました。